北大阪健康医療都市
健都
KENTO

北大阪健康医療都市

北部大阪都市計画事業 吹田操車場跡地土地区画整理事業

事業のあらまし

緑と水につつまれた健康・教育創生拠点。
「吹田操車場跡地」から「北大阪健康医療都市～愛称：健都（けんと）～」へ

平成27年（2015年）7月、「国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター推進協議会」では、平成30年度を目途に同センターが移転建替するJR京都線岸辺駅北側を、「健康と医療」をコンセプトとした「北大阪健康医療都市（愛称：健都）」として名称・愛称を決定。

UR都市機構が進める土地区画整理事業・防災公園街区整備事業とともに、先端的な研究開発を行う企業等の誘致など、様々な機能の集積に向けた取組みが進められている。

北大阪健康医療都市
健都
KENTO
地区愛称ロゴマーク

■ 健都エリア図

平成27年（2015年）8月撮影

太古から続く人の営み

吹田操車場跡地は、千里丘陵裾野に広がる平野部に位置し、人の生活圏としては、考古学的に後期旧石器、縄文草創期まで遡ることができる（吉志部遺跡）。

古墳時代（5世紀前半から7世紀初頭）に北方の一帯（片山、岸部から佐井寺、山田にかけて）で須恵器の生産が盛んであった。現在の紫金山公園には吉志部古墳があり、この頃に造られたと考えられている。また8世紀前半には、難波宮や平安京の造営に用いられた瓦の生産地であった。

中世から近世にかけては、大都市の大阪に近いこの地域は、水田や畑が広がり、新鮮な野菜の供給地としての役割を果たしていた。

江戸時代には、吉志部、七尾などの集落が点在し、産土神（うぶすながみ）としての吉志部神社がある。吉志部神社の本殿は慶長15年（1610年）の再建であるが、平成20年（2008年）、不審火により全焼し、現在の本殿は正確に復元したもので、400余年前の建立当時の建築様式と鮮やかな装飾が蘇っている。

●吉志部古墳（横穴式石室）

●吉志部神社

日本の発展とともに誕生した吹田操車場、そして次なるステージへ

鉄道国有化以降、鉄道貨物輸送は増加し、すでに東海道本線は物流の大動脈であった。

従前の各駅での非効率な貨車の入換え作業は限界に近づき、高い操車能力を持つ専用の駅の整備が待望される中、大正12年（1923年）、大阪を通る貨物を捌く吹田操車場は開業した。規模、貨車取扱量で「東洋一の操車場」と言われ、アサヒビールの工場を擁する吹田市は「ビールと操車場の町」として全国にその名を馳せた。

しかし1970年以降は自動車の大衆化が進み、さらに貨物輸送においてコンテナ専用列車の登場により、昭和59年（1984年）に操車場経由式の輸送が全廃。吹田操車場はその約60年にわたる歴史の幕を閉じた。

時を経て都市の発展という時代のベクトルは、梅田貨物駅での都市再生事業というカタチとなり、吹田操車場跡地への機能移転が決定され、コンテナ物流に最適化された「吹田貨物ターミナル駅」と「まちづくり用地」が新たに整備された。

吹田操車場物語の次章の始まりである。

●昭和36年（1961年）
当時の吹田操車場

●現在の吹田貨物ターミナル駅

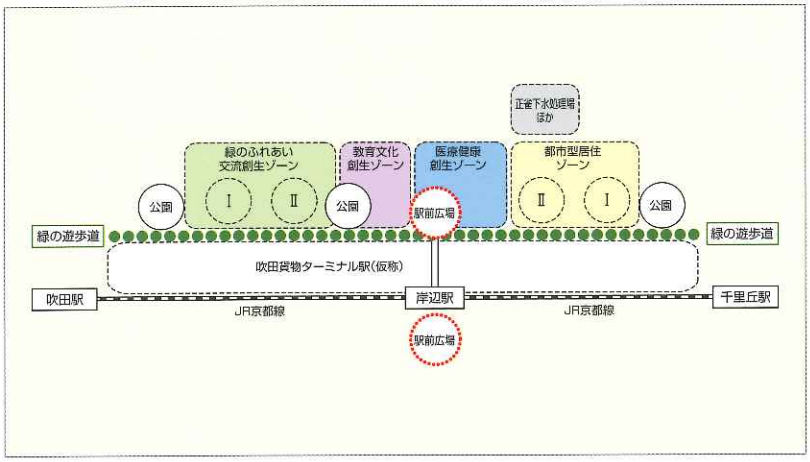
Outline ‖ まちづくりの概要

まちづくりの方向性

当地区のまちづくりの方向性について、平成19年(2007年)6月には「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」がまとめられ、導入機能の基本方針として「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」が決定された。

まちづくり基本方針 「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」の創出

吹田操車場跡地まちづくり概念図及び導入機能誘導方針 ※平成19年(2007年)6月時点



医療健康及び教育文化創生ゾーン エコメディカルシティの中核機能(※)

地区中央部の「医療健康及び教育文化創生ゾーン」では、環境に関する先進的な取り組みを通じて持続可能な環境先進都市の実現を目指すとともに、周辺に集積する全国に誇るべき高次医療機関と連携し、メディカルな機能と、最先端の環境性を持つエコロジカルな機能が融合した「エコメディカルシティの創生」を目指します。
(※)エコメディカルシティの中核機能として、先端医療機能や未病健康教育機能、医療産業化のための治療開発機能等が考えられています。

緑のふれあい交流創生ゾーン 緑を中心とした市民生活交流空間の創出

新たにまとまった緑を配置することで、緑を中心とした市民生活交流空間を生み出します。JR吹田駅側のゾーンでは、緑の中で楽しく自然とふれあい、人々が交流しながら心身の健康づくりや、環境学習ができるような機能・施設の立地を目指します。JR岸辺駅側のゾーンでは、「緑と水につつまれた」というコンセプトを中心に置きながら、緑豊かな居住・生活支援施設の導入を図ります。

都市型居住ゾーン 居住機能を中心とした複合的な機能を持った土地利用

様々な世代の生活ニーズや新しいライフスタイルを支える居住機能をまちの中心的な機能として位置付けます。また、その居住機能を補完し、魅力あるものにするために、様々な生活サービスを提供する生活利便機能、周辺を含む地域の人々が集い、自然とのふれあいを感じる交流機能及び災害時の防災機能などを適切に配置し、まち全体で複合的な機能を持った土地利用を図ります。

医療健康及び教育文化創生ゾーン施設立地イメージ

History ‖ まちづくりの経緯

基盤整備

- ●4月 土地区画整理事業の事業計画認可及び施行規程の認可
- ●6月 吹田操車場跡地地区 土地区画整理事業 起工式
- ●10月 土地区画整理審議会発足

H21 2009

H20 2008
- ●3～7月 吹田操車場跡地まちづくりアイデア募集コンペ実施

H19 2007
- ●11月 大阪府・吹田市・摂津市からの事業要請 吹田操車場跡地地区(仮称)の整備に関する基本協定締結
- ●1月 吹田貨物ターミナル駅(仮称)起工式
- ●6月 吹田操車場跡地まちづくり全体構想策定

H18 2006
- ●2月 吹田貨物ターミナル駅(仮称)建設事業の着手合意協定締結

H16 2004
- ●1月 梅田貨物駅の1/2を百済駅へ移転することを通知(鉄道・運輸機構から大阪市へ)

～H10 ～1998
- ●平成9年(1977年)6月 梅田貨物駅1/2移転計画の申し入れ(清算事業団から大阪府、吹田市、摂津市へ)
- ●昭和59年(1984年)2月 吹田操車場機能廃止

H24 2012
- ●4月 岸辺駅北交通広場完成

H23 2011
- ●10月 仮換地・保留地の決定
- ●12月 第1回仮換地指定

H25 2013
- ●1月 市立吹田市民病院が移転立地決定
- ●3月 吹田貨物ターミナル駅開業
- ●6月 国立循環器病研究センターが移転立地決定

H26 2014
- ●4月 岸辺駅北交通広場、自由通路(鉄道・運輸機構整備)等供用開始

H27 2015
- ●5月 医療クラスター形成会議発足

H28 2016
- ●7月 地区の名称を北大阪健康医療都市(愛称：健都)に決定
- ●3月 換地処分公告

地区愛称ロゴマーク

まちづくりのあゆみ

Development ‖ 各種道路等の整備

都市計画道路天道岸部線、千里丘中央線の整備については、既存道路の拡幅工事を行った。また、施行地区を跨ぐ４本の地下道は改修工事、区画街路1.2.5.6.12号線については、拡幅・改修、他の区画街路等は新設した。なお、区画街路1.2号線は吹田市施行、他は土地区画整理事業により整備。

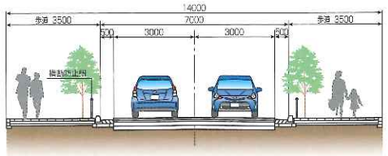
●千里丘中央線

従前　従後

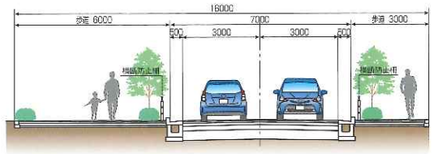
●天道岸部線

従前　従後

千里丘中央線（W=14.0m）



天道岸部線（W=16.0m）



■幹線道路

名称	形状寸法	
	幅員(m)	延長(m)
岸部駅前線	32.5	55
天道岸辺線	16.0	1,404
岸部中千里丘線	18.5	1
千里丘中央緯線	14.0	868
千里丘中央緯線	10.5	523

■区画街路

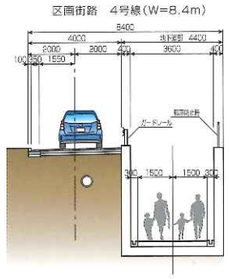
名称	形状寸法	
	幅員(m)	延長(m)
区画街路１号線	4.7	148
区画街路２号線	8.7	332
区画街路３号線	4.7	40
区画街路４号線	8.4	63
区画街路５号線	12.0	47
区画街路６号線	34.0	248
区画街路８号線	4.7	247
区画街路９号線	7.1	94
区画街路１０号線	7.1	361
区画街路１１号線	7.1	79
区画街路１２号線	14.0	34
その他区画街路		

●区画街路４号線

従前

従後

区画街路　４号線（W=8.4m）



Development ‖ JR岸辺駅前の整備

JR岸辺駅は、吹田貨物ターミナルの建設に合せ、平成24年（2012年）3月に、駅舎機能を2階に集約し、エレベーターやエスカレーターを兼ね備えた橋上駅となった。また、駅の橋上化に合せ、同年4月には、線路や貨物駅を跨ぐ『南北自由通路』（施行者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構）と土地区画整理事業で整備した『岸辺駅北交通広場』が同時に供用開始された。

また、既存の南交通広場と岸辺駅をつなぐエレベーター、エスカレーターの整備も実施され、南交通広場の再整備が行われた。

■岸辺駅北交通広場【施設概要】

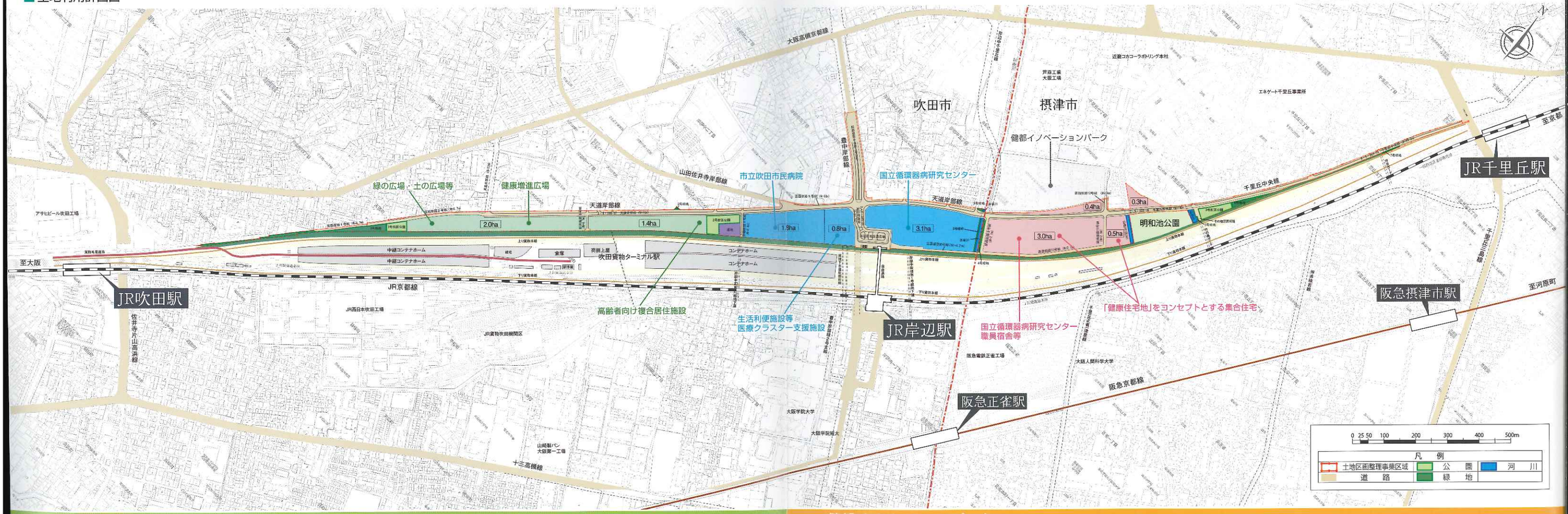
交通広場面積：約5,600㎡
・バス乗場（2）、バス降場（1）、タクシー乗降場（1）、バリアフリー乗降場（1）、付帯施設（トイレ、既設地下道連絡階段）

■南北自由通路【施設概要】

通路延長：183m
（北交通広場から南交通広場までのデッキ部分）
有効幅員：6m
付帯施設：階段、エスカレーター（上下）南北各１基、エレベーター（22人乗り）南北各１基

■土地利用計画図

＊下図中の施設及び施設名称は、平成28年（2016年）3月時点での予定



―土地区画整理事業、防災公園街区整備事業、住宅市街地整備事業の３事業による総合的なまちづくり―

①土地区画整理事業［※1］

○事業の名称
北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地区画整理事業
○施行者の名称
独立行政法人都市再生機構（土地区画整理法第3条の2第1項）
○所在地
大阪府吹田市、摂津市
○施行面積
約22.1ha（吹田市15.0ha、摂津市7.1ha）
○事業施行期間
平成21年4月～平成28年3月（清算期間を除く）
○全体事業費
約122億円
○平均減歩率
約56%（公共減歩率約28%、保留地減歩率約28%）
○保留地面積
約5.2ha

●土地利用計画

【※1】道路、公園等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業。

②防災公園街区整備事業［※2］

○所在地
摂津市域内
○公園面積
約1.1ha
○施行者の名称
独立行政法人都市再生機構
○土地取得
約1.1ha
（平20.8鉄道・運輸機構から取得）
○事業期間
平成23年度～平成26年度

【※2】既成市街地における防災機能の強化を周辺市街地の整備改善と一体的に行う事業。

③住宅市街地整備事業［※3］

○所在地
摂津市域内
○事業主体
独立行政法人都市再生機構
○従前地取得面積
約4.0ha
（平20.9鉄道・運輸機構、JR貨物から取得）
○事業期間
平成20年度～平成27年度

【※3】良好な居住環境形成のためのまちづくりコーディネートと民間誘導を行う事業。

―健都イノベーションパーク―

国立循環器病研究センターを中心として、医療及び健康関連の研究機関や企業等が集積する国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）の形成を図るための、企業や大学の研究機関、サテライトオフィス等の進出用地。

■まちづくりの基本方針（摂津市）

・医療・健康関連産業の集積による都市活力のあるまちづくり。
・周辺住環境と調和したまちづくり。

■健都イノベーションパークの利用に係る３つの基本方針（吹田市）

1. 国立循環器病研究センターにとって、同センターを中心とする**オープンイノベーションの実現や健康関連産業等との連携を創出・促進する場**となることを目指します。
2. 市民にとって、医療・健康関連の活動の場であるとともに、様々な取組や情報発信により、**健康寿命の延伸に資する場**となることを目指します。
3. 地域企業にとって、**ビジネスチャンスの拡大につながる場**となることを目指します。

■健都イノベーションパークエリアイメージ

○健都イノベーションパーク

【概　要】
●所在地：摂津市千里丘新町
●面積：約4.0ha
（吹田市と摂津市の所有地の合計）
●企業用地：約1,000㎡～約5,000㎡
（応相談）
●対象：企業・大学・研究機関等
※定期借地権を設定する予定

【スケジュール（案）】
・平成27年度　募集条件等の検討
・平成28年度　事業者募集及び決定
・平成29年度　施設建設（進出事業者）
・平成30年度　利用開始（進出事業者）

■Development ‖ 公園・緑地等の整備

公園・緑地及び防災公園の整備

土地区画整理事業等により整備した公園・緑地と土地区画整理事業区域に隣接して整備された明和池公園(1.1ha／施行者：UR都市機構)及び『緑の遊歩道』(施行者：鉄道・運輸施設整備支援機構)が一体となり、緑とうるおいのネットワークを形成。まちづくりのコンセプトでもある「水と緑につつまれた健康・教育創生拠点」の創出を反映させる。

●明和池公園の整備 ※平成28年春供用開始

市民の憩いの場として機能するように、芝生広場、健康遊具、大型遊具、水施設等及び災害時に備えた様々な防災機能を備えた設備を整備。

この公園の名称は、過去、当地にあった明和池の周辺に集落の遺跡が発見された事と、過去の記憶を後世に継承していきたいという思いで名づけられた。

●各公園・主な緑地の整備計画及び整備状況

1号街区公園

1号緑地

〈1号街区公園・1号緑地〉
西玄関口として、緑地をエントランス空間として整備。周辺住民のコミュニティの場となるよう、多目的に利用できる空間を配置し、ベンチや遊具を配置。なお、同公園・同緑地は、吹田市施行で整備。

2号街区公園

〈2号街区公園〉
本地区の中心的な公園。休息や交流を中心とする交流空間と子供の遊びを中心とする多目的広場を整備。

3号街区公園

6号緑地

〈3号街区公園・6・7号緑地〉
隣接する防災公園と連携に配慮し整備。また、山田川河川敷空間及び隣接の各緑地、緑の遊歩道と一体となった整備を図る。緑地については北の玄関口として、エントランス空間として整備。

●緑の遊歩道 ※平成28年春全線供用開始予定

JR吹田駅からJR千里丘駅まで東西3kmに及ぶ幅員8～12m(歩行者空間の幅員は3m)の遊歩道。ベンチ等の設置、様々な種類の桜等の植栽を行い、四季を通じて散策を楽しめるよう整備。

■Prospects ‖ 『健都』の発展に向けて

国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の移転・整備を核とした『医療健康及び教育文化創生ゾーン』の立地施設誘導のほか、『緑の交流ふれあいゾーン』『都市型居住ゾーン』についても、各ゾーンの立地特性や導入施設の基本方針に基づいた計画が進められている。

【立地施設概要】

独立行政法人国立循環器病研究センター

※平成30年度完成予定

我国に6法人ある国立高度専門医療研究センター(ナショナルセンター)の一つで循環器病に関する診断・治療、調査・研究及び専門医療従事者の研修・育成を行っている。

【施設概要】
- 敷地面積：30,585.17㎡
- 延床面積：約 125,772㎡
- 構造形式：鉄骨造(CFT柱)・鉄骨鉄筋コンクリート造
  ・鉄筋コンクリート造、免震構造
- 階　　数：地上10階、塔屋2階、地下2階
- 病 床 数：550 床
- 診療科目：28 診療科

独立行政法人市立吹田市民病院

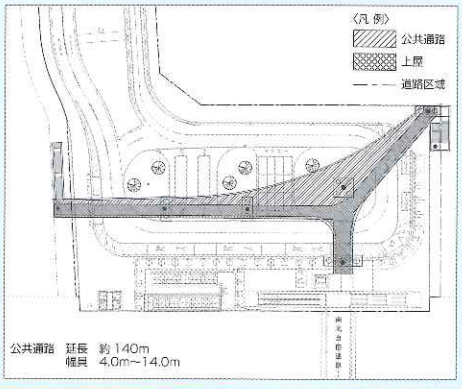
※平成30年度開院予定

急性期医療や高度医療、救急医療を中心に『市民とともに心ある医療を』の基本理念に基づいて運営される吹田市の中核病院である。

【施設概要】
- 建築面積：約8,060㎡(病院本体のみ)
- 延床面積：約 36,650㎡(病院本体のみ)
- 構造形式：鉄筋コンクリート造(免震構造)一部鉄骨造
- 階　　数：地上8階、塔屋1階
- 病 床 数：431 床
  - ・一般病床386床
    (うちICU床、救急専用病床8床)
  - ・回復期リハビリテーション病床45床
- 診療科目：22診療科

各種施設と人とをつなぐ歩行者 デッキ

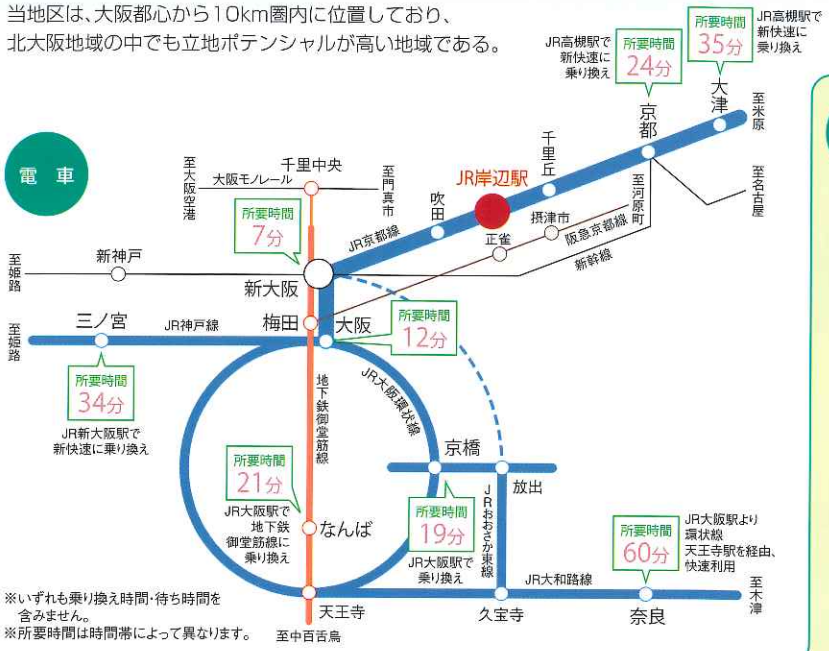
JR岸辺駅前の「医療健康及び健康文化創生ゾーン」に集約配置される国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、駅前複合施設を有機的につなぐ歩行者用デッキ及びデッキ上のイベント広場が、3つの中核施設のオープンまでに吹田市により整備。



Access ‖ 交通アクセス

関西各方面からスムーズアクセス

JR岸辺駅へは大阪方面から30分以内でアクセスできるほか、
京都や神戸方面からもスムーズにアクセス。
当地区は、大阪都心から10km圏内に位置しており、
北大阪地域の中でも立地ポテンシャルが高い地域である。



※いずれも乗り換え時間・待ち時間を含みません。
※所要時間は時間帯によって異なります。

大阪エリアから

- ■大阪駅から約**34**分（約11.2km）
- ■名神高速道路、吹田ICから約**17**分（約5.4km）
- ■近畿自動車道、中国自動車道、吹田JCTから約**19**分（約6.1km）
- ■大阪空港から約**30**分（約16.4km：中国自動車道利用の場合）
- ■関西国際空港から約**1**時間**22**分（約72.6km：関西空港自動車道・阪神高速・堺泉北道路・阪和自動車道・近畿自動車道利用の場合）

京都エリアから

- ■京都駅から約**54**分（約37.6km：名神高速道路利用の場合）

神戸エリアから

- ■三ノ宮駅から約**54**分（約43.7km：阪神高速・名神高速道路利用の場合）

滋賀エリアから

- ■大津駅から約**55**分（約48.0km：名神高速道路利用の場合）

Profile ‖ 両市の概要

吹田市

1960年代の千里ニュータウンの誕生により、関西を代表するベッドタウンとなった。1970年（昭和45年）には大阪万博が開催され、6,421万人の入場者を記録。吹田市の存在を、世界にアピールした。岡本太郎氏が手がけた「太陽の塔」は今でも吹田市のシンボルとなっている。

市内には、JR・地下鉄・私鉄・モノレールと5つの鉄道路線が走っており、鉄道が通らないエリアはバス便が運行し、各駅を結ぶネットワークが充実。名神高速道路、近畿自動車道、中国自動車道を結ぶ吹田ジャンクションもあり、まさに関西交通網の要衝と言える。

【概要】

- ■面積／36.1㎢
- ■人口／367,068人（平成27年12月現在）
- ■世帯数／166,190世帯（平成27年12月現在）
- ■市の木／クスノキ
- ■市の花／サツキ
- ■姉妹都市・提携都市（海外）
  スリランカ民主主義共和国モラトワ市
  オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州
  バンクスタウン市

【市章の由来】

吹田市の市章は「吹」と「田」の文字を組み合わせてシンボル化したものである。「吹」は平和にシンボルであるハトを形どり、円内の交差する4本の線は「田」を表している。マークの周辺は花弁で、まちが美しく発展することを願ったものである。

摂津市

大阪平野の北部に位置する摂津市は、淀川の豊かな自然に育まれ、古くから農耕が盛んで、大阪と京都を結ぶ水路交通の要衝としても重要な役割を担ってきた。市内からは、北西にかけて六甲山や北摂の山々を、東から南には生駒や金剛の山並みを望むことができる。大阪の都心部から約12kmという距離にあり、大阪市やその衛星都市と幹線道路や鉄道で結ばれており、大阪都市圏の核になる都市として発展を続けている。

【概要】

- ■面積／14.88㎢
- ■人口／85,477人（平成27年12月現在）
- ■世帯数／39,377世帯（平成27年12月現在）
- ■市の木／クスノキ
- ■市の花／ツツジ
- ■姉妹都市・提携都市（海外）
  中華人民共和国安徽省蚌埠（ばんぷう）市
  オーストラリア連邦クィーンズランド州バンダバーグ市

【市章の由来】

カタカナの「セ」の文字を図案化するとともに、大空へとはばたく野鳥をイメージ。また、野鳥をモチーフに組み込むことで、大きく飛躍する摂津市を表している。

街に、ルネッサンス

UR都市機構

独立行政法人 都市再生機構
西日本支社 北大阪都市再生事務所
〒564-0032 大阪府吹田市内本町3丁目26-29
TEL.06-6383-7261 FAX.06-6383-7266

2016.3 1,000